

府中学園・学校運営協議会

『つながろう 地域・家庭・学校 創ろう 日本一の学園』

1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子ども像

本校の学校運営協議会では、保護者や地域の方の代表が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりして、学校の様々な課題解決に取り組んでいる。学校と地域・家庭が力を合わせることで、互いの思いを出し合い、それぞれの立場で地域の子どもの成長を支えていく学校づくり、地域コミュニティづくりを進めている。

今年度も『つながろう 地域・家庭・学校 創ろう 日本一の学園』というスローガンのもと、地域・家庭・学校が協働して、「郷土を愛し、世界に目を向け行動できる児童・生徒の育成」に努めている。

2 学校の特色を生かした取組み

本校では、地域とのつながりを意識したコミュニティ・スクールの取組みを行っている。学校全体では、『灯籠まつり in 府中学園』や『地域における奉仕活動』など「参加から参画へ」を合い言葉に取組みを推進している。各学年でも実態にあわせて、地域との連携を深め、地域力を活用しながら取組みを推進している。

【灯籠まつり in 府中学園】 7月21日

1 ねらい

- ①日頃、お世話になっている地域・保護者の方々から児童生徒に対してのメッセージをいただき、児童生徒は、地域・保護者の方々に対する感謝の気持ちを灯籠に記すことで、心の交流を図り、地域の方々とのつながりを深める。
- ②「びんご国府まつり」の開催と合わせて「灯籠まつり in 府中学園」を実施することにより、地域社会の一員として参画するという意識と、郷土に誇りを持ち郷土を愛し郷土の発展に努めようとする意識を高める。
- ③多くの保護者や地域・企業の方々に関わっていただくことを通して、コミュニティ・スクールに関心を持っていただき、今後の活動の礎を固める。

2 灯籠プロジェクト

地域・保護者の方々からいただいたメッセージをもとに、地域の方々、保護者の方々と、異学年グループでと学年に応じた制作方法で灯籠を作った。



本年度は、幼稚園児・保育園児も参加し、出来上がった1000あまりの灯籠は、学園敷地内の通路や階段に並べた。灯籠の点灯時には、府中学園の関係者だけでなく、地域の方々にも見ていただいた。保護者から「地域や保護者のメッセージを受け、

子どもが返事を書いてくれた今回の灯籠。当日、とても楽しみに参加させてもらいました。毎年続けて欲しいです。」など感想を多くいただいた。

3 ブース運営

参加から参画へ児童生徒の意識を高めていこうと、「未成年の主張」「折り鶴」「T1グランプリ」「スポーツ」「憩いの場」「ミサガづくり」など児童生徒が運営するブースを設けた。さらに、地域の方々、地域の企業や高校生・大学生の方々も協力して下さり、19のブースを開設することができ、参加者は延べ1313人であった。

【地域における奉仕活動】 11月1日

1 ねらい

地域の施設や校園の清掃を通して、日頃、お世話になっている地域の方々に対する感謝の気持ちを表す場とする。

2 活動内容・分担

- 1・2年生・・・地域に飾るプレゼントづくり
- 3～8年生・・・地域の清掃活動
- 9年生・・・活動のアドバイザー

【第1学年の取組み】

『灯籠まつり in 府中学園』に向けて、自分たちが書いた地域の方へのメッセージに返事を書いていただいたり、描いている夏らしい絵を褒めていただいたりと、地域の方と一緒に子どもたちは楽しく灯籠を作った。灯籠まつり当日は、「憩いの場」ふうちゃんルームを開設し、地域の方にマッサージをしながら話をし、楽しく活動することができた。



また、生活科「昔遊びの会」では、地域の方に遊び方を教えてもらいながら昔遊びを行った。地域の方と関わることで、日常的につながりを深めていけるよう活動している。

【第2学年の取組み】

生活科「どきどきわくわくまちたんけん」では、商店街を中心に町探険に出かけた。それぞれの店で売られているものや店の仕事の様子などを見学してもらい、地域には様々な店があることや、地域のために働かれている人がたくさんいらっしゃることを知ることができた。



今後の学習では、地域のために自分たちにできることはないか考え、プレゼントや手紙を渡すなど一層の交流を図っていきたい。

【第3学年の取組み】

総合的な学習の時間に「府中の名物を知ろう」の学習を行った。地域の味噌屋さんやお好み焼き屋さん、家具屋さんの協力をいただき、府中味噌作りと府中焼き作りの体験、家具工場の見学をした。



府中焼き作り体験では、ミンチ肉を使い味と食感を大切にしていることを知った。府中焼きと名前がついているのには理由があり、府中焼きを通して、府中市をもっと広く知ってもらい

盛り上げていこうという思いが込められていることにも気付くことができた。

今後は、2年生に、地域のよさや府中市の名物について知らせるために、学習のまとめを発表する活動を計画している。

【第4学年の取組み】

総合的な学習の時間に「わたしたちとごみ」の学習を行った。はじめに、自分たちが出しているごみは、



どこで、どのように処理されているのかという問題意識から、府中市クリーンセンターとオガワエコノスの見学を行った。府中市内では年間約1万t以上のごみが出されていること、可燃ごみはごみ固形燃料RDFにされ火力発電に役立っていること、様々なごみがリサイクルされていることを知る事ができた。

【第5学年の取組み】

総合的な学習の時間に、府中市の良さを伝えるために「オリジナル街弁当」づくりに取り組んでいる。1学期は、弁当の主食となる米について学び、バケツ稲作りを行った。米農家の方の話を聞き、米作りの大変さを知ることができた。2学期は、作った米を使用したり、府中の特産である味噌やお好み焼きなどを食材に使ったりしながら、府中「オリジナル街弁当」を考えていく。

【第6学年の取組み】

備後国府まつりでは、府中市交通少年団として、地域の方々に交通安全を呼びかけるパレードに参加した。

児童は市民のみなさんの前に出る恥ずかしさはあったが、この活動を通して、どのようなアピールが効果的であるか考え、もっと主体的に行事に参画していきたいという思いを膨らませている。



【第7学年の取組み】

総合的な学習の時間に、福祉について学習を進めている。生徒の「地域の福祉施設を利用されている方々と交流したい。」という思いをもとに、地域の介護老人福祉施設「元町ふれあいセンター」等での訪問学習を行った。

利用者の方々との触れ合いを通し、高齢者への理解を深めたり、地域の一員として自分にできることは何かを考えたりするきっかけとなっている。



【第8学年の取組み】

『灯籠まつり in 府中学園』で、ソーランと太鼓の発表を披露した。地域の講師を招き練習を重ねていたが、満足できる発表をすることができなかった。そこで次の発表の機会に向けて、講師に教えていただいたことをやるという意識から自分たちでリーダーを中心にどんな演技をしたいのかという意識に変えて練習を進めていった。

敬老会では、「地域に元気を与える演技を届けよう」という思いを持ち、息の合った演技を披露することができた。自分たちの頑張っている姿を地域の人に見ていただくという場があることで、意欲を向上させることや目的意識を強く持つことができた。



【第9学年の取組み】



総合的な学習の時間に、多くの上級学校の協力をいただき学校訪問を行った。実際出向いていくことで、それぞれの学校の特徴を知り、自分の進路をより深く考えるよい機会となった。

今後は、「府中市の未来を引き継ぐ子どもたちを大切にしよう」という思いのもと、おもちゃを製作し、地域の保育所を訪問する「保育所体験」を通して家族や地域の人々に支えられて成長してきたことを実感させたい。

3 今後の方向性

今年度も学校運営協議会で協議を重ね、広く地域と関わる活動を展開してきた。そのことにより、児童生徒の地域への愛着を育てることができている。また、地域の方々と一緒に活動を行う中で、コミュニケーションを図ることができ地域とのつながりも深まってきている。

今後は、府中学園コミュニティ・スクールの目指す姿を端的に表すキャッチフレーズを考えるなど更なる充実に向けて、児童生徒及び保護者、地域住民との「つながり」の意識を高めていく。年度末には1年間の取組みのまとめとして、地域社会・学校・家庭が協働して活動できたことへの感謝の気持ちを持ち共有する場を設ける。

